

インフルエンザ予防接種説明書

インフルエンザは、高熱、頭痛、関節痛等普通の風邪に比べて、全身症状が強く肺炎や気管支炎などを合併し、重症化しやすいのが特徴です。

インフルエンザ予防接種は任意予防接種で受ける義務はなく、本人・保護者が希望しない場合は予防接種をする必要はありません。インフルエンザ予防接種を希望される場合は流行する前に以下の説明書をよく読んでから予防接種を受けましょう。

《予防接種を受ける前に必ず読みましょう》

1. インフルエンザの予防

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。予防接種を受けてから、インフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、効果は約5ヶ月間持続します。また常日頃から休息をとることや、外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いも大切です。

2. ワクチンの接種量と回数

6ヶ月から3歳未満児は0.25mlで2回、3歳から13歳未満児0.5mlで2回、13歳以上は0.5mlで原則1回となります。(6歳未満での発病阻止効果は約60%前後とされています。)

3. 予防接種を受ける前の注意

(1) 一般注意

インフルエンザ予防接種はインフルエンザHAワクチン(4価ワクチン)を皮下注射します。接種前に、気にかかること等は主治医に質問し、接種の有無をご本人が判断し、「予診票」に署名をしてから接種を受けてください。なお、接種の意思はあるが自署できない場合は、家族等が代筆署名してください。

(2) 予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある人・・・37.5℃以上の場合
- ②重い急性疾患にかかっている人
- ③インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシー(30分以内に起こるひどいアレルギー反応)が出たことのある人
- ④以前インフルエンザの予防接種を受けた際、2日以内に発熱、全身性発疹等のアレルギーを疑う病状を呈したことのある人
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した場合

(3) 予防接種を受ける際に、担当医師とよく相談しなければならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ③今までけいれんを起こしたことがある人
- ④今まで中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- ⑤インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるとされたことがある人

4. 予防接種を受けた後の注意

①注射部位が腫れる、痛くなる、微熱、倦怠感等がみられることがありますが、約2～3日で消失します。まれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることがありますのでご注意ください。接種後30分間は急な副反応が起こることがあるので、医療機関と連絡をとれるようにしておきましょう。

②入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。

③接種当日はいつも通りの生活をして構いませんが、激しい運動は避けましょう。

5. 予防接種による健康被害時の対応について

この予防接種によって、入院を必要とする程度の疾病や、日常生活が著しく制限される程の障害などの健康被害が生じた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となります。副反応が出た場合には速やかに接種医にご相談ください。

◎その他、不明な点がありましたら、こども家庭センター(283-4320)までお問い合わせください。